獨 協 医 学 会

会　長　稲　葉　憲　之（獨協医科大学学長）

運 営 委 員 会 委 員

簾持　淳*　石光　俊彦**　秋山　一文　阿部　七郎　安西　尚彦
石井　芳樹　片桐　一元　黒須　明　桑島　成子　小島　勝
小嶋　英史　小林　哲　鈴木　純恵　田中　康広　千種　雄一
土岡　丘　中元　隆明　西山　緑　濱口　眞輔　春木　宏介
平林　秀樹　前川　正夫　緑川由紀夫

*委員長　**副委員長

Dokkyo Journal of Medical Sciences 編集委員

石光　俊彦*　千種　雄一**　阿部　七郎　安西　尚彦　石井　芳樹
小島　勝　田中　康広　中元　隆明　濱口　眞輔

*委員長　**副委員長

編集事務員

鯉沼　行子

編 集 後 記

Dokkyo Journal of Medical Sciences Vol.42, No.2の発刊にあたり，読者ならびに獨協医学会の会員の皆様にご挨拶を申し上げます．本号には原著3編，症例報告1編の計4編の論文に加え，平成26年12月6日に開催された第42回獨協医学会の抄録が掲載されています．例年この時期は論文数が少なくなっていますので，会員の皆様には是非積極的に日頃の研究成果や臨床経験の成績をご投稿頂きたくお願い致します．

また，例年，前号のNo. 1には大学院修了者の学位論文が多く掲載されますが，今年のNo. 1の原著論文の掲載は4報にとどまり，掲載論文数が少なくなりました．これとともに，今年は9名の大学院4年生が研究継続のため在学を延長することになりました．医学部の多くの大学院生は臨床の業務に従事しながら研究活動を行う社会人大学院生であり，2つを両立させることは難しいことであるかもしれません．しかし，「優れた医師は優れた研究者でもある」と言われるように，医療の仕事と医学研究が全く異なり相容れないものではありません．医学研究の根源は1人1人の患者様を貴重な症例として最善を尽くし注意深く診療し，新しく気づき見いだされたことがあれば，症例報告として発表することにより学び伝えるであるかと思います．そして，関連する複数の症例から学びとることがあれば，それが臨床研究となり，観察研究から疫学的な追跡調査や介入試験へと発展して行きます．また，基礎医学研究を行う場合でも臨床の経験から問題意識を見出し，常に臨床医学とどのように関連するかという観点から研究を進めることにより，より有意義でインパクトの大きい成果が得られることが期待されます．

とはいうものの，昨今，医学研究活動を取り巻く環境は厳しくなっています．必要な研究費が得られ難くなってきていることに加え，基礎医学そして臨床医学のいずれにおいても，研究不正の問題が取り沙汰され，医学研究のあり方自体が問われています．そのような状況の中で，研究を進めて論文を作成し学位を取得するのは容易でないことは明らかです．また，昨今，世界的に発表される医学論文数が増加しているため，少しでもimpact factorがあるような学術誌に論文がacceptされることが，以前に比べ難しくなってきています．レベルの高い雑誌を目指して研究を続けることは賞賛されますが，医学研究活動は医療，医学に携わる限り長く続けられるべきものですので，学位の取得をもって1つの区切りとし，より進んだ段階へ研究活動を発展させることも考慮していくのがよいかと思われます．その意味で本誌への論文発表がさらなる前進へのステップとなれば幸いです．　（石光俊彦）

2015年7月20日印刷　第42巻　第2号
2015年7月25日発行
編集発行人　獨協医学会
稲　葉　憲　之
発　行　所　獨協医学会
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880番地
獨協医科大学
Tel（0282）86-1111（内線2009）
製　　作　教　文　堂
〒162-0804 東京都新宿区中里町27
Tel（03）3260-6136